

第1章 葉山町の今・未来

1. 地形と将来都市構造

(1) 葉山町の位置および地形

葉山町は三浦半島の西北部に位置し、北は逗子市に、南及び東は横須賀市に接し、西は相模湾に面しています。面積は、17.06km²、町内の西側は市街地で、東側は丘陵地となっており、森戸川、下山川が相模湾に向かって流れています。市街地の背後の丘陵地には山林が多く、南北4kmの海岸線は砂浜と岩礁の美しい景観を有し、冬暖かく夏涼しい気候となっています。

(2) 21世紀の葉山町のイメージ

1970～1990年代の「こころ豊かな美しい伝統の町づくり」を引き継ぎながら、新しい世紀をひらくものとして、次のように将来像を構想しています。

『海とみどりにひろがる交流 文化のまち 葉山』

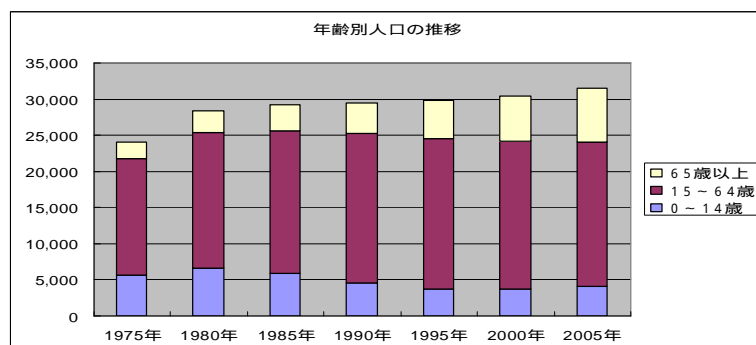
* [海とみどりにひろがる]は、相模湾に面し、遠く富士山や箱根の山々を眺望できる美しい海岸とその背後にある緑豊かな丘陵をイメージしています。

* [ひろがる交流]は葉山町を訪れる人々との交流、地域社会の人々の交流、高齢者と子どもとの交流、海外との交流など、様々な交流の場が広がっていくことをイメージしています。

* [文化のまち]は、博物館や美術館などの文化施設や美しい自然環境があり、様々な文化・芸術活動や生涯学習活動・コミュニティ活動などが活発なまちをイメージしています。

(3) 将来人口と年齢階層の構造

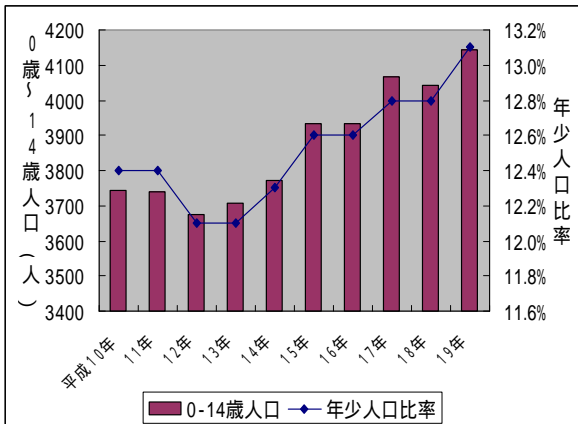
本町の将来人口は、平成7年(1995年)を基準年次とし、平成27年(2015年)を目標年次としてコーホート法により推計すると、平成22年(2010年)をピークとして横ばいからやや減少しますが、新たなまちづくりによる誘導人口増1,600人と見込んで、目標人口は約33,000人と想定します。また、年齢階層別人口の推移は、15歳未満人口の減少、15～64歳人口の微増、65歳以上の人口の増加と想定します。



【第1図】年齢別人口の推移

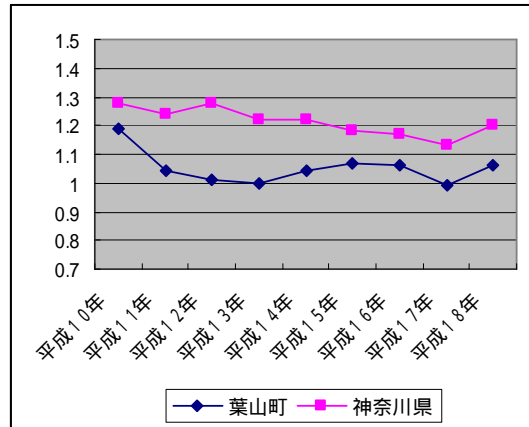
資料：国勢調査

本町の出生数の状況は、過去5年間200人前後で推移しています。しかし、平成13年(2001年)以降、0～4歳と30～39歳の流入による年少人口の増加がみられます。



【第2図】年少人口及び年少人口比率の推移

資料：神奈川県年齢別人口統計調査結果報告



【第3図】合計特殊出生率の推移

資料：神奈川県衛生統計年報

本町の世帯構造は、夫婦のみの世帯が占める割合が高いことと三世代同居世帯等が含まれるその他の親族世帯の割合が県内では高いという特徴があります。

【第1表】一般世帯及び6歳未満・18歳未満の親族がいる世帯の世帯構造

(平成17年10月1日現在)

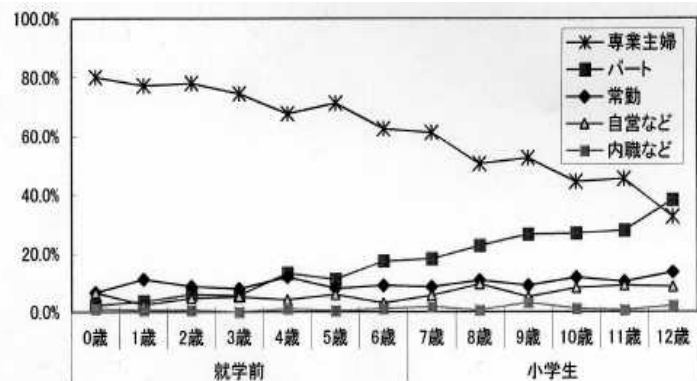
		一般世帯		6歳未満の親族がいる世帯		18歳未満の親族がいる世帯	
		葉山町	神奈川県	葉山町	神奈川県	葉山町	神奈川県
核家族世帯	夫婦のみの世帯	26.7	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	夫婦と子どもから成る世帯	35.7	33.4	86.2	86.6	77.2	79.3
	男親と子どもから成る世帯	1.3	1.3	0.4	0.3	0.7	1.0
	女親と子どもから成る世帯	7.2	6.5	2.5	3.6	6.2	7.3
その他の親族世帯		10.0	7.2	10.9	9.5	15.9	12.3
非親族世帯		0.5	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0

資料：国勢調査

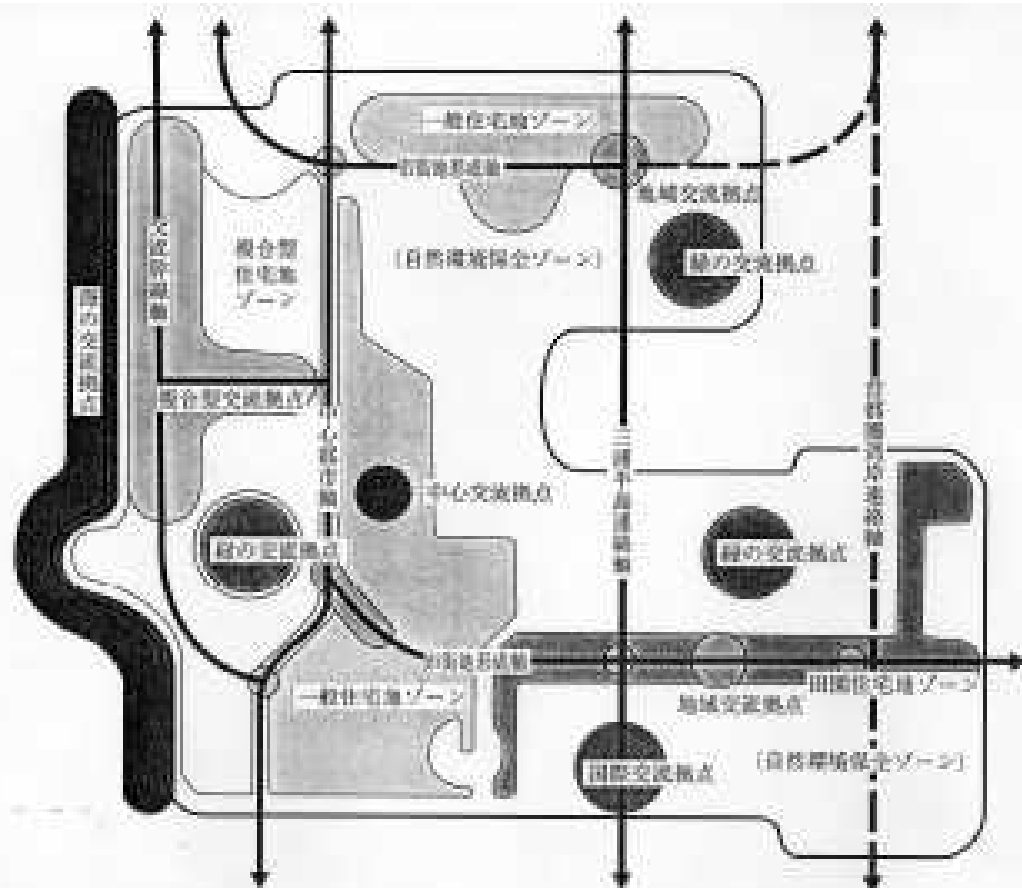
【第4図】

子どもの年齢と母親の就業状況

資料：葉山町子育てに関する実態調査



(4) 都市構造概念図



① 軸

→ まろびくりの骨格となり、道路網の整備や土地利用の方向性を定めてくれるものを「軸」と表現します。

② 交流拠点

→ 町内村の人々を集める魅力をもった集山の骨格を「交流拠点」と表現します。

③ ゾーン

→ 将来的な土地利用の方向を明示した区域区分を「ゾーン」と表現します。

- 複合型住宅ゾーン：集の存在、複合利用の集積、商店街を誘引する住宅地。
- 一般住宅ゾーン：良好な環境住宅地の存在を誘引する住宅地。
- 田舎住宅地ゾーン：農地と集積地の存在を誘引する住宅地。
- 自然環境保全ゾーン：景観を保全し、誘引する区域。

2 . 葉山町の教育環境

(1) 教育機関の位置



(2) 教育機関等の概要

「幼児教育機関」について

【保育園】

町内には、公立 1、私立 3 の保育園があります。（平成19年10月 1 日現在）

- | | | | |
|---------|----------|------------|--------|
| ・葉山保育園 | 堀内2050の9 | ・葉山にこここ保育園 | 長柄991 |
| ・風の子保育園 | 堀内667 | ・おひさま保育園 | 一色1489 |

【幼稚園】

町内には、5 つの私立幼稚園があります。（平成19年10月 1 日現在）

- | | | | |
|----------|----------|----------|---------|
| ・明照幼稚園 | 堀内570-4 | ・あけの星幼稚園 | 堀内1968 |
| ・どれみ幼稚園 | 一色1862-1 | ・御国幼稚園 | 木古庭1768 |
| ・あおぞら幼稚園 | 木古庭1333 | | |

幼児教育の中心機関として、上記の保育園・幼稚園が個性豊かな教育を展開し、大切な幼児期の教育を支えています。また、町民の子育てを支援する意味でも大きな役割を果たしています。

< 今日的な課題 >

平成18年10月に保育園・総合教育センターが開設し、町立保育園の施設・設備は大きく改善されました。今後は、保育時間延長等、保育ニーズの多様化への対応と共に、隣接する小学校や「ことば・きこえの教室」「たんぼ教室」等、学校教育・福祉・療育分野との連携によって、きめ細やかな子育て支援のあり方について検討していく必要があります。

小学一年生が学校に適應できず学習に集中できないなどの「小1プロブレム（問題）」を解決するため、発達や学びの連続性が確保されるよう「幼小一貫教育」を検討する必要があります。

幼稚園の基本を生かす中で、地域の幼児教育センターとしての子育て支援機能を活用して、「親と子の育ちの場」としての役割・機能を充実させることが望まれます。

家庭教育の重要性について見つめ直し、考える機会の提供や体験活動の機会の充実など地域で子どもを育てる環境の整備を推進することが求められています。

「学校教育機関」について

【小学校】

町内には、4 校の公立小学校があります。（平成19年10月 1 日現在）

- | | | | | |
|---------|--------|--------|--------|--------|
| ・葉山小学校 | 堀内2050 | クラス数21 | 児童数700 | 教職員数31 |
| ・上山口小学校 | 上山口158 | クラス数6 | 児童数177 | 教職員数13 |
| ・長柄小学校 | 長柄130 | クラス数12 | 児童数370 | 教職員数23 |
| ・一色小学校 | 一色1060 | クラス数13 | 児童数463 | 教職員数21 |

【中学校】

町内には、2校の公立中学校があります。（平成19年10月1日現在）

・葉山中学校	堀内2247-2	クラス数12	生徒数446	教職員29
・南郷中学校	長柄1835	クラス数9	生徒数263	教職員20

小・中学校では、人間尊重の精神に基づき調和のとれた人格の完成を目指して、自主性、創造性豊かな健全で実践力のある児童・生徒の育成に取り組んでいます。

今日、高度情報化、国際化、少子高齢化など子どもを取り巻く社会の変化はめまぐるしく、今後一層の変化が予想されます。こうした状況に対応できる力を培い、個性豊かに自らの人生を切り拓いていくことのできるたくましい人間に、また、社会の一員としてよりよい社会を築き、新たな文化を創造し、その担い手となれる人間の育成が求められています。

<< 今日的な課題 >>

基礎・基本の学力を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力（生きる力）を育むことを目指して、体験的・問題解決的な学習や自主的・自発的な学習に取り組んでいます。その際、「地域との連携」による学習プログラムの開発が必要となりますが、学校のニーズと地域の教育資源をコーディネートできる人材を養成することが急務となっています。確かな学力を確立するとともに個性を生かす教育を充実させるために、一部の学年・教科で少人数指導等によるきめ細かな指導を行っています。一層の推進には、教職員定数の改善や20人規模の教室など学校環境の整備が不可欠となります。

各学校は、それぞれの教育目標に基づいて「特色ある教育」を展開していますが、今後は、教育活動その他の学校運営の状況について、自己評価を行い、その結果を公表するようにします。この学校評価によって、保護者や地域の方々に関心をもっていただいたり、理解を深めることができること、外部の評価を取り入れることができること、学校改善がすすみ、学校教育の質が向上することなどが期待されます。

小学校4校、中学校2校の学校規模については、一部学校間格差があります。集団としての力を高める意味などからも、学区の見直しを図ることにより学校規模を適正化する必要があります。

「社会教育機関」について

【図書館】

図書館は、昭和56年に情報化・技術革新が叫ばれたときに社会教育施設として整備され、最近では生涯学習の場として情報集積の拠点として活用されています。

- ・ 開館時間 9時00分～午後6時（7/20～8/31は、午後8時まで）
（月曜日・第2木曜日は、休館日）

- ・開架公開図書：3万冊
- ・書庫蔵書：8万冊
- ・利用登録者：1万4千人

【公民館教室】

公民館教室は、町内の余裕教室等で開催しています。

- ・ガーデニング、はがき絵、ステンドグラス、ビーズ、パソコン、男の料理、ジュニアハンドベル、葉山の文化財、リフレッシュ体操、ボイスレッスン、等

【葉山しおさい博物館】

昭和36年に皇太子殿下(今上天皇)の御成婚を記念して、県立葉山公園内に「町立観光館」が開館となりました。館内には昭和天皇陛下御下賜標本を中心に葉山の海洋生物や民族資料などが展示され、昭和47年には「町立郷土館」に名称が変更になり、教育委員会の所管となりました。昭和62年には旧御用邸付属邸跡地に「しおさい公園」とともに「葉山しおさい博物館」が開設されました。

活動の趣旨：相模湾を中心とした海洋生物に関する資料を収集し、これに基づいた保管、展示、教育普及、調査研究等を行っている。

展示内容：昭和天皇陛下御下賜標本、葉山海岸の海洋生物、相模湾を特徴づける深海の生物など、葉山海岸や相模湾から収集された約2500点の標本を展示。

【芝崎ナチュラルリザーブ】

平成7年、当町は芝崎海岸を「芝崎海岸及び周辺水域」として町の指定天然記念物に指定しました。その別名が「芝崎ナチュラルリザーブ」です。芝崎海岸は海洋生物が豊富で、三浦半島でも群を抜いた生物相を示しています。かつては昭和天皇が調査され、多くの新種を発見されました。中でもサメジマオトメウミウシは芝崎先端に浮かぶ鮫島に因んだものです。

近年、磯の荒廃が目立ち、海洋生物が激減あるいは絶滅の危機にさらされています。芝崎の貴重な自然を財産として後世に残すため、生涯学習の場として活用しながら保全する目的で天然記念物に指定したものです。

【保健センター】

保健衛生は、町民みんなの健康維持、増進そして疾病予防にと、乳幼児から成人までの健康診査、検診、相談、教育等の場を企画しています。母子保健については、家庭訪問指導両親教室、乳幼児健康診査、乳幼児健康相談・教室を行い、妊娠・出産・育児と、一貫した育児支援を行っています。

成人老人については、健康手帳の交付や健康教室、健康相談、機能訓練教室等を実施し、町民の健康づくりを支援しています。

【児童館・青少年会館】

児童館は現在 6 館設置され、0 歳から 18 歳までの乳幼児、青少年を対象に運営されています。自由来館というかたちで留守家庭児の保育の場として利用されていますが、乳幼児の遊び教室、3 歳児育児グループ活動等乳幼児育児支援事業の場としても活用されています。

青少年会館は町内に 1 館あり、児童館と同様、自由来館というかたちで利用されていますが、青少年団体子ども会が主な利用者です。また、成人などの団体・グループも利用でき、様々な活動練習、茶道、フォトクラブの活動などもあります。

【福祉文化会館】

高齢者の方の健康増進、生きがい創造の場、寝たきり老人、虚弱老人等保健や福祉サービスを必要とする人達に必要なサービスを提供する場、福祉団体、ボランティア活動などの拠点として、また、音楽、演劇、美術等の鑑賞の機会を提供するとともに、町民の自主的な文化活動の場、学習の場として芸術文化活動の振興に寄与し、町民の福祉の増進と文化の向上に資するための複合施設です。

・施設内容

大ホール、練習室、大会議室、第一・第二集会室、第一・第二・第三会議室、第一・第二教養娯楽室、栄養指導室、機能回復訓練室、図書室（録音ブース）、浴室

教育・学習関係の施設として、学校をはじめ公民館、図書館、博物館、体育施設などがあります。加えて産業訓練施設や福祉施設、レクリエーション施設などがありますし、公的施設以外の民間の施設なども入れると実に多くの施設があります。これらの施設は地域における学習の場として人々の学習の活性化に深くかかわってきます。生涯学習推進の上からその整備を推進して参ります。

<< 今日的な課題 >>

学校は青少年の人間形成を図る場として長年にわたって整備されてきました。生涯学習が進む中、この教育・学習条件の整った学校を地域の人々に開放することが求められています。今後は、施設・設備の整備とともに学校開放の進め方については工夫していく必要があります。

地域の学習関係施設としては、学校以外にも多くの施設があります。生涯学習が盛んになるにつれて、これからはなお多数の学習の場が求められます。これらの施設の一層の整備充実を図るとともに、施設のネットワーク化を進め、町民の学習ニーズにできる限り応えていくべきです。

生涯学習社会を実現していくには、生涯学習社会推進の中心的役割を果たす機関（機能）が求められます。このような機関（機能）として生涯学習センターが求められています。

3 . 現在、そして 2 1 世紀の社会

第 2 次世界大戦後、我が国は欧米諸国に追いつき追い越すべく努力をし、驚異的な高度経済成長を遂げ、80年代には経済水準・所得水準において世界のトップレベルに達しました。そして、この様な先人の努力によって一人ひとりの物質的な豊かさがもたらされました。しかし、その一方で、都市化の進行による地域社会の連帯感が希薄になっていること、核家族化の進行による他人とのふれあい経験が不足してきていること、経済成長を追い求め続けた結果の精神的な余裕のない生活などの社会傾向が生じました。近年、私たちは経済成長の過程で失ったものに気づき、ゆとりや心の豊かさなど多様な価値観や自己実現を求めるようになってきています。また、国際化・高度情報化も著しく進展しています。

いうまでもなく、将来の姿が極めて不透明な現在の実情からして、長期的な社会変化を予測することは至難のことではあります。しかし、『今後の社会変化の中をたくましく生き抜く人間の育成』を考える上で、学習・教育の在り方に大きく影響すると思われる中期的な社会変動の要因として次のことがあげられます。

社会・経済の視点から

世界の社会・経済の基軸変化

- ・国際連合を合意形成の場として活用していくことが重要視される。
- ・BRICs（ブラジル・ロシア・インド・中国）の産業経済活動への影響力が増大する。
- ・宗教的な背景が異なることに伴って生ずる摩擦と、経済・人口・軍事からの地域のクラスター化（注）が進行する。
- ・人種・民族や文化の融合が進行する。

（注）クラスター-cluster 化とは、いくつかの集合体が相互に関連しあうこと。本来は花や果物の房で、集団・群れもさす。

日本の社会・経済の変化

- ・少子高齢化に伴う労働力不足への対応として、外国人の国内流入人口が増加する。
- ・産業技術の進展に伴い、IT（情報技術）・バイオテクノロジー・ナノテクノロジーが重点分野になる。
- ・生活向上型の産業構造から教育・医療・福祉等の人的資源を活用する産業構造に移行する。
- ・考える力や新しく創り出す力が一段と求められる。
- ・自己責任重視型社会になる。

自然の視点から

地球環境の変化

- ・地球温暖化が進む。
- ・現在60億の人口が40年後は100億になると予想され、それに伴って飲料水となる真水が不足する。また、食糧増産による土壌不良と、その結果としての食糧危機が生ずる。
- ・エネルギー消費の偏在化を解消するための太陽光自然エネルギー等への転化が進む。

このような社会変動の要因は世界共通のことと考えます。それに加えて、葉山町固有の事項もあります。

ベッドタウンからライフタウンへの都市性格の変化

- ・ 70年代から丘陵地が開発されて住宅団地ができ、人口も急増してベッドタウン化が進みました。それから今日に至るまでに、週休2日制と学校週5日制の定着や60歳以上の人口割合が増加したことなどから、“眠りに帰る街（ベッドタウン）”から“生活する街（ライフタウン）”に都市性格が移行しています。

県道217号線（逗子葉山横須賀線）のトンネル開通による交通動態の変化

- ・ 上山口～長柄間のトンネルが平成16年3月30日に開通し、交通の所要時間が大幅に短縮されたことにより、上山口地区と長柄地区（特に南郷地域）の隣接感が一層増しました。これからは、葉山町全体がU字型からO字型の都市イメージに移行します。

市街化区域が増加した場合の変化

- ・ 市街化区域内の宅地について、『葉山町都市計画マスタープラン（平成9年3月）』では平成7年（1995年）の338haが平成27年（2015年）には501haに増加すると想定しています。もしこれが実現すると、約4,000人の人口増が考えられます。そのうち小学生は240人、中学生は120人と想定します。

次に、現在の社会背景から生じている課題や、これから特に求められるであろうことを以下にあげます。

自立という視点から

- ・ 家庭の教育力低下による基本的な生活習慣の欠如
- ・ 家族構成の変化と子育ての困難化
- ・ 電子機器等の進展による遊びの変化
- ・ 少子化による依存心の増長と自己の過大評価傾向
- ・ 基礎学力の低下
- ・ 情操教育・道徳教育の必要性
- ・ 情報量の増大と情報の取捨選択能力の不足
- ・ 豊富な食品と健康管理の困難化、体力の低下

心の豊かさ、共生の視点から

- ・ 家庭教育力と地域教育力の低下による社会規範意識の欠如
- ・ 個別化する家庭生活と他人との「ふれあい」経験の不足
- ・ 家族の少数化と異年齢集団との交わりの不足
- ・ 集団生活の経験不足からくる規律遵守の意識の希薄化、楽しみ方の体得機会の減少
- ・ 国際化による多様な民族の交流、価値観の多様化への対応能力を育成する必要性

- ・グローバル化に伴うコミュニケーション能力を習得する必要性
- 人類の進歩と発展に貢献する視点から
- ・科学の発展と高度な専門能力の要求
 - ・機械化の発展と、それに対応できる技術の習得の必要性
 - ・公害と、その解決策の開発の必要性
 - ・国際化に即応するコミュニケーション能力の必要性
 - ・教員の教授力向上と新しい知識・技術の習得の必要性
- 生命愛の視点から
- ・生命に対する畏敬の念と生命倫理観の確立
 - ・科学技術の発展に伴って生じる自然界への感謝の欠如
 - ・自然の保全と、自然の中でのレクリエーションの必要性



田植え（長柄小学校）



体育祭（葉山中学校）

戦後、日本の教育は機会均等の理念に基づき広く普及し、経済発展の礎を築いて国民生活の向上に貢献してきた。しかし、学歴偏重を背景にして受験競争が激化する中、知識詰め込み型の教育や画一的な学校教育が主流となり、校内暴力、いじめ、不登校等、様々な教育問題を生じる結果となった。

こうした動向を背景として、文部省（現、文部科学省）は中央教育審議会の答申（平成8年）を受け、「ゆとり」の中で子どもたちに「生きる力」をはぐくむ方向を示した。また、地方分権が推進される動きの中で、地方教育行政や社会教育行政のあり方についても答申が出され、学習指導要領の改訂、関係法の改正に反映された。中でも生涯学習については、生涯にわたる学習権の重要性が見直され、生涯学習に関わる人材・施設設備等の整備や学習機会・研修体制の整備の方向性が示された。

平成13年、文部科学省は「21世紀教育新生プラン」をつくり、今後の教育改革の取り組みの全体像を示すものとして、その具体的な施策・課題を示した。

さらに平成18年には、約60年ぶりに教育基本法が改正され、規範意識、公共の精神に基づき主体的に社会の形成に寄与する態度や、生命及び自然を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度、他国を尊重し国際社会の平和と発展に寄与する態度等、新たに義務教育の目標が定められた。

この改正教育基本法の新しい教育理念を踏まえ、翌平成19年には、学校教育法・地方教育行政の組織及び運営に関する法律・教育職員免許法及び教育公務員特例法、いわゆる「教育三法」を改正し、確かな学力を育むに当たって重視すべき点を明確にするとともに、教育委員会の責任体制の明確化や体制の充実・教員として必要な資質能力が保持されるよう、定期的に最新の知識技能の修得を図る等、新たな指針が示された。

このような我が国の教育動向を受けて、中央教育審議会教育課程部会は、平成19年11月、学習指導要領改訂に向けた「審議のまとめ」を答申し、次のような具体的な改訂のポイントを示した。

「生きる力」という理念の共有

基礎的・基本的な知識・技能の習得

思考力・判断力・表現力等の育成

確かな学力を確立するために必要な授業時数の確保

学習意欲の向上や学習習慣の確立

豊かな心や健やかな体の育成のための指導の充実